第２学年　道徳学習指導案

平成２７年１０月　９日（金）第５校時

１ 主題名　周りの人々への感謝　２－（６）
　資料名　「忘れていたこと」（出展　彩の国の道徳「自分をみつめて」）

２ 主題設定の理由

（１）ねらいとする価値について

内容項目２－（６）は、「多くの人々の善意や支えにより、日々の生活や現在の自分があることに感謝し、それにこたえる」ことを指導の観点としている。

小学校高学年では、「日々の生活が人々の支え合いや助け合いで成り立っていることに感謝し、それにこたえる」ことを指導の観点としており、中学校では小学校における内容を踏まえるとともに、自分を他の人との関わりの中でとらえ、望ましい人間関係を育むことを重視している。

人間関係を築く上で大切なのが、感謝の心である。相手が自分のことを大切に思ってしてくれる言動、その好意をありがたいと感じられることや相手に素直に感謝を表現できる望ましい人間関係を築くことが大切である。また、相手のためにとった言動が、相手の心に届き、それが感謝の気持ちとなって返ってきた時には、自分は価値ある存在であることを実感できる。

中学生のこの時期は、自立心が高まるとともに、感謝の気持ちを伝えられる時とうまく気持ちを表現できない時がある。そこで、学級や学年を超えて、幅広い世代の人達や異性の見方や考え方に理解を深め、自分のことを大切にしてくれる言動に気付き、感謝の気持ちを表現できる態度を育てたい。

（２）生徒の実態

男女共に明るく元気な生徒が多く、自分の役割に責任をもってよく取り組んでいる。また、一学期に職場体験活動を実習した。働くことの楽しさや厳しさを学べたのも教えて下さった方のおかげだと気付くことができた。その経験を生かし、学級内でも相手のよさに気付くようになり、学期終わりのＭＶＰ調査では、多くの生徒のよさや感謝の気持ちを取り上げ、伝えることができた。

以下、一学期を振り返ってのＭＶＰ調査の内容（一部抜粋）

・新しいクラスになり不安でした。たくさん話しかけてくれたし、何度も助けてくれました。誰に対しても優しい人です。
・シャープペンなど物を落とした時にすぐに拾ってくれました。
・「ついでに捨ててあげるよ」とゴミを捨ててくれました。休み時間など優しく接してくれました。
・集配係ではないのに、進んで手伝ってくれました。
・悩んでいるとき、相談にのってくれました。休みの人の家を訪問してくれていました。
・気遣いがあり、よく話しかけてくれました。明るい人だし、相手を優先してくれました。
・勉強で分からないところがあったとき、教えてくれました。

二学期に入り、少しずつ幅広い世代の人達や異性に対する感情や考え方に差異が見られるようになってきた。自分のために何かをしてもらっても、それが当たり前という気持ちでいることや心から感謝すべき場面においても教師等に促されて形式的な言動をとることもある。

そこで、以下の項目についてアンケートを行った。（平成２７年９月１日実施）

１，あなたは、感謝を伝える場面で、その気持ちを素直に言葉や行動にしていますか。

伝えている　２０％　そこそこ伝えている　４７％

あまり伝えていない　２２％　伝えられない　１１％

２，これまでの経験で、あなたが「ありがたいな…」と感謝している人は誰ですか。また、それはどんなことですか。エピソードを書いて下さい。

親　５０％　祖父母　２％　先生　１６％　先輩　６％　友人　６％

知人　６％　将来の夢に関係する人　２％　分からない１２％

【エピソード 一部抜粋】

私が学校で嫌なことがあり、思いがけず家で友達の悪口を言ってしまったときに親が「人の悪口を言うと自分に返ってくるし、喧嘩をするってことは相手も嫌な思いをしたんじゃないの？明日しっかり相手の気持ちを聞いてごらん。」と言われ相手の気持ちを考えることの大切さを学びました。

アンケート結果からは、自分から感謝の気持ちを素直に言葉や行動に移している生徒が多いことが分かった。「あまり伝えていない」生徒においては、言葉や行動にできなくても文章にして感謝の気持ちを具体的に書くことができることが分かった。

（３）資料の活用について

本資料は、主人公の「宏」は生徒会長として文化祭を成功させようと、執行部として文化祭準備においてすべてをまとめ、進める立場であった。文化祭前日、「自分だけで文化祭をつくっているなんて思うなよ。」と生徒会副会長の拓海の一言で、宏は多くの生徒の協力と支えによって生かされている自分に気が付く。本資料を通して、周りの生徒への感謝や、その感謝の気持ちに応えようとする主人公の態度に気付かせていきたい。

そこでねらいとする道徳的価値に迫るため、以下の場面を柱において話合いを進めていきたい。

（　展　開　）

・咲紀を責める場面では、生徒会長としての責任を果たすことや焦りから、感情的になる主人公に共感させたい。

・拓海に責められる場面では、何も言い返せない主人公の気持ちに寄り添わせたい。

・拓海に感謝を告げられる場面では、多くの生徒の協力と支えによって生かされている自分に気付かせたい。

（　終　末　）

・主人公の気付きの場面では、「周りの人々への感謝」を表そうとする主人公の態度に迫りたい。

３ ねらい

周りの人々の善意や支えに触れたとき、自然にわく感謝の気持ちに気付き、それを素直に表そうとする態度を育てる。

4 指導計画（他の教育活動との関連）

事前指導	９月運動会…練習、本番を通して、周りの人達の協力や支えに対して感謝の気持ちを表そうとする態度を育てる。
道徳の時間	１０月資料名「忘れていたこと」２－（６） 周りの人々の善意や支えに触れたとき、自然にわく感謝の気持ちに気付き、それを素直に表そうとする態度を育てる。
事後指導	１０月文化祭…クラス一丸となってつくり上げる合唱を通して、周りの人達の協力と支えに対して、感謝の気持ちを表そうとする態度を育てる。 朝の会…わたしたちの道徳 ｐ８６元小結・高見盛のメッセージを読み、ｐ８５の記入欄に学習のまとめをする。 ３月三年生を送る会…二年生が中心となり、卒業生と在校生が互いに支え合って成長してきた感謝の気持ちを言葉や歌の発表で伝え合う。

5 学習指導過程

段階	学習活動・主な質問	予想される生徒の反応	指導上の留意点☆評価の観点
導入	1 「感謝」に関するアンケート結果から、感謝の表し方について実態を確認し合う。	・感謝の言葉を言えるときと言えないときがあるな。 ・〇〇さんに色々してもらったな。	・アンケートの結果、身近なことから共感を持たせ、資料への興味、関心を持たせる。
展開	2 資料「忘れていたこと」について知る。 登場人物、情況を知る。	［ 条件・情況 ］ ・主人公「宏」生徒会長 ・執行部として文化祭準備においてすべてをまとめる立場 ・副会長の「拓海」、装飾部の「咲紀」との間で、文化祭の準備に追われ、装飾が間に合わないことで咲紀を責める。	
	3 資料の範読・柱立て	・印象に残った所や話し合いたい所に線を引く。	・宏の心情とその変化に注目させて範読を聞かせる。 ・場面絵や言葉を貼り、場面をおさえる。
	①宏が咲紀に「他の部に余裕があったからよかったものの…。俺は装飾部だけにつきっきりってわけにはいかないんだからな。」と言ったとき、どんな気持ちだったのだろうか。	・文化祭を成功させたい。 ・咲紀に対して不満や苛々している。 ・任せているんだから、早くやってほしい。 ・自分は責任をもってやっている。 ・周りの様子を見る余裕がなく、焦っている。	・宏の責任感とその裏腹にある焦りから咲紀を責める心情に共感させる。

段階	学習活動・主な質問	予想される生徒の反応	指導上の留意点＊評価の観点
展開	②拓海に「自分だけで文化祭をつくってるなんて思うなよな！」と言われすっきりしない気持ちのまま帰宅した宏はどんな気持ちだったのだろうか。	・拓海にどうして怒られるんだろう。 ・悔しい。 ・俺は頑張っている。忙しさに気付いてほしい。 ・俺のやっていることは間違っているのかな…不安。	・周りの人達の協力や支えに気付かずにいる宏の気持ちを捉えさせる。
	［補］拓海に何も言い返すことができなかったのはなぜろうか。	・拓海の言うとおり。 ・自分だけ突っ走っていた。 ・忙しさを理由に、装飾部の様子を見に行かなかった。 ・咲紀を二回も責めた自分が悪い。 ・周りの人達の協力で装飾の準備が無事に完成した。	・宏の責任感、焦り、不安、罪悪感に共感させる。また宏の心情の変化を考えさせたい。 ・４人グループで話し合わせる。 ☆主人公の心情と変化を捉え、意欲的に話合いに参加できたか。
	③文化祭当日の朝、拓海から「俺たち宏には感謝しているんだぜ」と言われ宏はどんな気持ちだったのだろう。	・なぜ感謝されるのだろう。責めたり、みんなの頑張りに気付けなかったのに。 ・一生懸命やってきたことが、認められた。嬉しい。 ・自分のやってきた事は間違いではなかった。 ・感謝してくれる人の思いに応えよう。	・周りの人達の協力と支えによって生かされている自分に気付かせる。
	［補］「大切なこと、忘れていた」と気づいた宏は、この後どうしたのだろう？	・咲紀に謝罪、お礼を伝える ・協力してくれた多くの生徒に感謝を伝える。	・周りの人への感謝の気持ちに気付き、その気持ちに応えようとする宏の態度を考えさせる。
終末	４　他の生徒の感想を聞く。		・アンケートを振り返り、「感謝」のエピソードを読みあげる。 ☆周りの人々への感謝について、考えることができたか。

6　評価の観点

・主人公「宏」の心情とその変化を捉えることができたか。［発言・観察］

・「周りの人々への感謝」について考えを深めることができたか。［発言・記述］

≪話題につなげたい場面≫	≪キーワード≫	≪考えさせたい心の内≫
宏は生徒会長であり、文化祭実行委員の執行部として全部をまとめる立場だが、準備に追われ、責任と焦る気持ちで一人突っ走っていた。装飾部の仕事の遅さに苛立ち、咲紀を責める。	・まだそんなことやっているか。時間かけなくていい。 ・各部門の協力があったからよかったものの…。装飾部だけにつきっきりってわけにはいかない。	文化祭実行委員の執行部として全部をまとめる立場である宏の責任感とその裏腹にある焦りから咲紀を責める宏の心の内。
宏は拓海の思いがけない態度に何も言い返すことができなかった。足取りは重く、すっきりしない気持ちを抱えたまま帰宅した。	・拓海に何も言い返すことができなかった。 ・すっきりしない気持ちのまま帰宅した。	一生懸命に頑張っているのに気付いてもらえない自分と周りに気を配れずに責めてしまう宏の心の内。
宏は拓海からの謝罪や準備期間の感謝の気持ちを告げられ、大切なこと忘れていたと気付いた。	・みんながやってくれたから… ・大切なこと、忘れていた。 ・何かが吹っ切れたような気がした。	拓海の感謝の言葉や偉人の言葉から、あらためて多くの生徒の協力と支えによって生かされている自分に気付いた宏の心の内と態度

忘れていたこと

宏（主人公）
・生徒会長
・文化祭執行部
・一人突っ走る

拓海　副会長
・宏のサポート

責める

咲紀　装飾部
・装飾の仕事が遅れている

３日前

「おい咲紀、まだそんなことやっているか」・成功させたい
「チェックに時間をかけなくていい」　・責任感
「咲紀、各部門の協力があったから　・早くやってくれ
よかったものの…。俺は装飾部だけに　・任せていた
つきっきりってわけにはいかない」　・焦り

前日

「自分だけで文化祭をつくってるなんて思うなよな！」

すっきりしない気持ち

・拓海、どうして怒ってるんだろう。めずらしい。
・頑張っている気持ちに気づいてくれよ。
・自分がやってきたことに不安だ。

拓海に何も言い返せなかった

・自分だけが突っ走っていた。　自己中心的だった。
・拓海の言っていることは正論だな。
・咲紀に押しつけていた。咲紀を責めた自分が悪い。

きっかけ

塙保己一（埼玉県の偉人）
「多くの人の協力や支えがあったから偽しえたこと」
「俺たち宏には感謝しているんだぜ。宏が全体を見て…」
・拓海は、俺に指摘してくれた。いい友を持った。
・自分の事を見ていてくれたんだ。安心した。

当日の朝

「大切なこと、忘れていた。」この後宏はどうしただろう。
・みんなで文化祭を創っている。みんなが準備してくれなかったら出来なかった。感謝と謝罪を伝えたい。